

氏名 服 部 久

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 164 号

学位授与の日付 昭和41年 6 月30日

学位授与の要件 博士の学論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 **Estimating the Lapse of Time after Death of the Corpse Found in water by measuring the Non-Protein Nitrogen Contents in the Teeth** (水死体の歯牙における残余N量の測定による死後経過時間の推定)

論 文 審 査 委 員 教授 三上 芳雄 教授 渡辺 義男 教授 水原 舜爾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

死体について死後経過時間を推定することは法医学専門家のみならず検屍する一般医師にとってもきわめて難しい。とくに骨のみとなった腐敗死体についてはそれは一層難しい。著者は白骨死体、とくに頭蓋骨のみの水死体について、その歯牙から死後経過時間を推定するために抜歯人歯牙約 700 個を使用して 3 年間にわたりその残余 N 量を測定する実験をおこなった。

水中に放置した歯牙は抜歯直後から残余 N 量は増加し、20 日前後において最高値となり、ついで 30 日頃まで急減し、以後漸減して 1 年前後で抜歯直後の値より低値となった。また水中に放置した歯牙の残余 N 値は冬期、夏期および春秋期の各期においてその増減はほぼ類似して著差は認められなかった。すなわち、白骨死体についてその歯牙の残余 N 値を測定して、本実験成績値に比較するときはその死後経過時間の推定は或程度可能であることを認めた。

論文審査の結果の要旨

服部久提出の「水死体の歯牙における残余N量の測定による死後経過時間の推定」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

腐敗水死体、とくに白骨死体のみとなった水死体についての死後経過時間の推定はきわめて難しい。著者は水死体を中心とする歯牙における残余N量の増減を測定することによって死後の経過時間を推定する実験を3年間にわたり約700個の人歯牙を使用しておこなったものであるが、その結果は本実験成績により、或る程度その死後経過時間の推定の可能であることがわかり、いままで着想されなかったまったく新しい研究であり、法医学上の実際に寄与すること大であり著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力は充分有するものと認める。